

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 5年 1月 27日

事業所名 アスラボさばえ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		放デイの利用者と利用時間帯を分けている	
	2 職員の配置数は適切である	○			
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		活動の流れを視覚的に支援している他、教室内を構造化し負担なく行動できるようにしている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		就学後教室環境にスムーズに馴染めるよう学校と似た環境にしている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			療育後職員間で情報を共有し振り返りを行っている。振り返りによって出てきた課題についてはその後の活動内容や支援計画に盛り込んでいる。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			保護者様からのご意見を参考に、さらに利用者様や保護者様に安心していただける事業所となるよう今後も引き続き取り組んでいく。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			連絡帳ツールおよびHPで公開している。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		対面での研修の他、WEBなどで行われる研修やセミナーに積極的に参加している。また、研修内容を職員間で共有し質の向上を図っている。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		発達段階を踏まえたアセスメントツールを使い分析を行ったうえで、それぞれの特性に合わせた計画を作成している。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		ご利用者様の特性に配慮しながらそれぞれの項目において必要な支援が行われるように計画している。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		職員間で話し合っ、療育内容を作成している	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		年間プログラムを作成し計画的に行っている。また、全領域にわたって支援を行えるようにプログラム内容を工夫している。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している		○		利用人数の関係から活動は全て個別で行っている。
17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼時に活動内容共有を行っている		

関係機関や保護者との連携	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終了時に様子や活動内容を報告し、共有している	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		連絡帳アプリにて活動内容や様子を記録している。また、活動内容を振り返り、出てきた課題について検証を行い改善策の検討を行っている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		担当職員と児発管で支援内容の検討及び見えてきた課題について常に協議を行っている。	
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児発管(保育士)が参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○		該当者がいない
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○		該当者がいない
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		相談支援員の方を通して移行支援会議に参加できるよう話を進めている。	就学前の3月には移行支援会議に参加し就学時にスムーズに移行できるよう情報共有を図る予定になっている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		相談支援員の方を通して移行支援会議に参加できるよう話を進めている。	就学前の3月には移行支援会議に参加し就学時にスムーズに移行できるよう情報共有を図る予定になっている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		他事業所を見学したり、療育についての工夫や助言をいただいている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		たがいにサービス提供時間が異なるなかどのような交流ができるか検討する。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		現在、参加をしていない。今後参加を検討していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時に時間を設けている	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている		○	療育内容を共有しご家庭で取り組みそうな内容についてご提案を行っている。	ペアレントトレーニングと言ったしっかりとしたプログラムは行っていないが療育内容について情報の共有を行いご家庭と一貫した支援が行えるようにしている。	

保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に説明を行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		計画説明後、同意のサインをいただいている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		送迎時の他、必要に応じ相談の機会を持ち助言を行っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			現在、保護者会は設置していない。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		送迎時にお話をうかがう他、必要に応じて面談の機会を設けている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		連絡帳ツールを使い日々の療育内容や活動を発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報の取り扱いには十分配慮し、個人情報が含まれるものについては鍵付きの書庫に保管している。また、個人情報の取り扱いについて職員に徹底している。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		連絡帳ツールを使用し情報の伝達を図るほか、送迎時に口頭でもお伝えをしている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			コロナ禍のため、地域との交流は行っていない。
	非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		各種マニュアルは作成しており年に2回訓練を計画している。
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年に2回訓練を計画している。	
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		アセスメント時に確認を行い職員に共有している。	
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			食事、おやつの提供は行っていない。
45		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事故発生時の状況を正確かつ簡単にメモできるよう、イラストを用い記録用紙を設置している。それをもとに事例集が作成できるようにしている。	ヒヤリハット案件が発生した場合は職員間ですぐに情報共有を行い問題点、改善点を検討していく。
46		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		定期的に事業所内研修を行っている。また、WEB研修に参加する機会を設けている。	
47		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		職員間で身体拘束を行う際の基準を共有している。また、計画に記載し、説明を行っている。	